

妊娠・出産について「知らなかった…」と後悔する人を減らす 東京都立高校 4 校に出張授業 若い世代から身体に向き合い 正しい知識と適切なケアを行なう「プレコンセプションケア」を普及

不妊治療患者をはじめ不妊・不育で悩む人をサポートするセルフサポートグループ「NPO 法人 Fine（ファイン）」は、株式会社ベルタ（本社：東京都港区）^(※1) と共同で東京都「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業^(※2)」に参画。若い世代から自身の身体に向き合い、正しい知識をもとに適切なケアを行なうプレコンセプションケアの普及を目指し、2024 年度に全 4 校の都立高校にて「生殖や出生の多様性」に関する出張授業を実施しています。

1. 妊娠・出産については、保健体育の授業でほとんど取り上げられない

一般的に性別や人種、体格などさまざまな領域における多様性が認識されてきていますが、生殖や出生についても多様です。男性も女性もお互いの生殖の機能や出生について、「性教育」ではなく「生物学的」な観点から正しい情報を取得する必要があります。

しかし高校生は、保健体育の授業で避妊については習いますが、妊娠、出産にいたるまでのからだの仕組みについては、ほぼ授業で取り上げられることはありません。例えば男性の精子は常に新しく製造されるものの、女性の卵子細胞が一番多いのは 6 カ月の胎児の時であり、成長とともに卵子細胞がどんどん減ってしまい、新しく作られることがないという生殖機能の違いについて知る機会はほとんどありません。男性の精子と女性の卵子が受精し、妊娠して出産という単純な流れは授業で習いますが、なかなか妊娠しない状態、不妊の状態になった時の医療について学ぶ機会はありません。妊娠には精子や卵子の質が大きな影響を持ちます。受精卵ができて着床しないこともあります。また着床して妊娠しても、それを継続する途中で成長が止まるケースもあります。出産までには数えきれないほど多くのプロセスがあり、そのプロセスを一つひとつ乗り越えて誕生しています。

不妊当事者には、子どもを望みながらもなかなか授からず、医療の力を借りても授からない経験をした人や、妊娠することはできて流産や早死産を経験した人もいます。さらには、不妊治療を経て子どもを妊娠・出産した（する）ことに対する周囲の偏見に苦しむ人も多くいます。不妊を経験したからこそ、いま目の前にあるいのちは、当たり前存在することではないことを知っています。

加えて日本の若者の自己肯定感の低さ、自死率の高さ、いじめなど、「いのちの尊さ」についても伝えられる事実があると考えました。

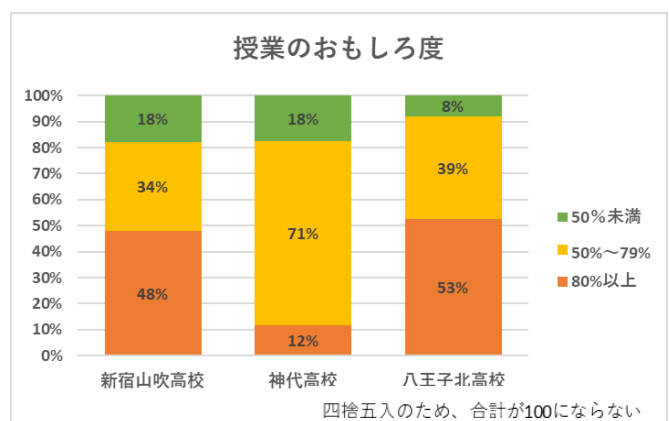
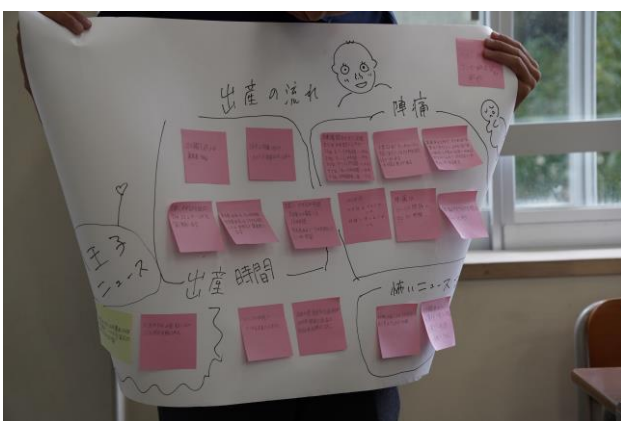
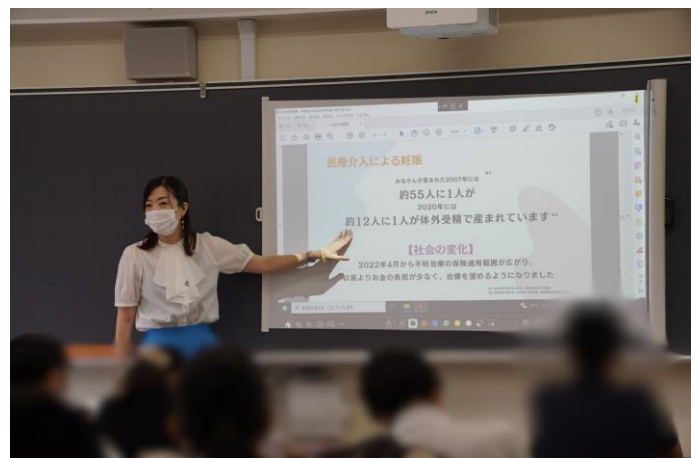
2. 「一人として同じ人はいない」

生殖～出生の多様性をクイズやグループワークから学ぶ

今回の出張授業では、男性の精子と女性の卵子の生殖機能の違い、妊娠までのプロセスと生殖補助医療の現状、妊娠・出産の体の状態など、誰一人として同じ体験や状況ではない生殖から出生までの多様性を知ってもらえる内容としました。

【前半の授業】いのちの尊さ、出産までの体の変化など、クイズや当事者の写真を多く用いて工夫を凝らし、さらに実体験をお話することでより身近に感じてもらうように語りかけています。

【後半の授業】少人数のグループに分かれて、調べワークの時間を設けています。「妊活」「妊娠」「出産」「子育て」の4つのテーマから一つを選択し、「ニュースになっていること」や「心や体の状態はどうなるのか、どんな課題があるのか」など、グループ内でコミュニケーションを取りながらインターネットを使って調べ、どんなことがわかったのかをまとめます。その後グループごとに発表して、全員で共有する内容にしています。



本出張授業の受講を希望された都立高校は4校で、2025年1月まで提供予定です。将来子どもを持ちたいと思った時に、生殖機能や生殖医療、妊娠、出産に関わる体のこと、心のこと、お金のことを「知らなかった」と後悔する人を減らしたいという願いに繋げるために、プレコンセプションケア活動をさらに推進していきます。

3. 受講した高校生「性や出産について、もっと話せる世の中になるといい」

第一回：6月15日(土) 東京都立新宿山吹高等学校

- ・自分たちが知らないたくさんの方に触れていた授業だったので、命についての大切さを知ることができました。
- ・卵子が胎児の時が一番多いことが意外だった。学校では教えてもらえないことを知る機会になってよかった。
- ・将来子どもが欲しいという機会ができたときに、覚えておくべきことだと感じた。
- ・出産や育児の制度は一律なものが多いが、個々によって体や心の変化、困っていることが異なることを学んで考えることが大切だと思いました。
- ・命はすごく尊いとわかって、もっと自分の心や体を大切にしたいという気持ちになりました。
- ・当事者の意見を聞くことができ新鮮に感じました。
- ・避妊の方法は知っていても、妊娠の方法は知らないという話が興味深かった。

第二回：6月20日(木) 東京都立神代高等学校

- ・もっとみんなが性や出産について話せる世の中になればいいと思った。
- ・自分の命も、他の人の命もたくさんのお金の積み重ねということがわかった。
- ・必ず生まれるわけではないことを知って、命の大切さを学びました。
- ・育児にはたくさんのお金がかかることがわかりました。
- ・性について普段調べることがなかったので、新鮮で面白かった。

第三回：7月17日(水) 東京都立八王子北高等学校

- ・保健の授業よりも深く学べた。
- ・命を大切にしようと思った。
- ・生まれてからの費用がこんなにかかるとは・・・。
- ・出産までの過程で改めて親に感謝した。
- ・流産する人も多いのだなと感じた。
- ・自分が生きているのは当たり前なことではないとわかった。
- ・不妊治療にもいくつか種類があることを知って少し安心した。

(※1) 株式会社ベルタ <https://belta.co.jp/>

(※2) 東京都「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」
<https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/sesaku/net/entrance4.htm>

東京都教育委員会が設立した地域教育推進ネットワーク東京都協議会が行なう事業。企業や大学、NPO 等と連携し、高校生が社会や職業について実感をもって理解し、将来生活するために必要な能力を身につけることを目指す教育プログラムです。企業や NPO が提供する教育プログラムの中から、都立高校が受講の有無を決定します。

【本ニュースレターに関するお問い合わせ、画像提供の依頼、取材の依頼は下記までお願いいたします】

特定非営利活動法人 Fine(ファイン) <https://j-fine.jp/>

所在地 〒134-0052 東京都江東区木場5丁目6-1サニーコーポ K・201

担当: 広報

電話: 03-5665-1605 Email: finekouhou@j-fine.jp